

# SARANIP

No. 13

市立函館博物館館報

1975.8.1

## 箱館戦争資料(その1)

詩書 榎本武揚筆（函館市指定有形文化財）

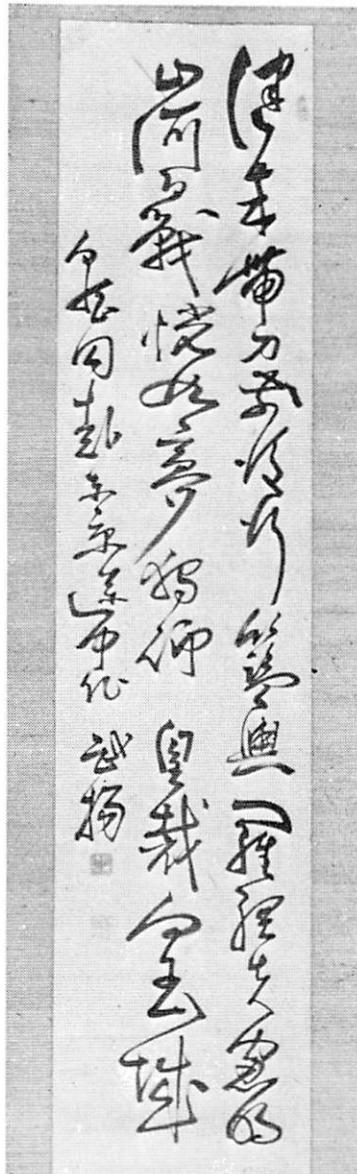
健武帶刀前後を行く。藍輿の羅網窓明を失す。

山河百戦恍として夢の如し。独り皇裁を仰がんと玉城に向う。

因に就き東京に赴く途中の作  
榎本釜次郎（武揚・号梁川）書  
一三〇×二八（cm）紙本

明治二年五月十八日、降伏した榎本は幹部六名と共に唐丸籠で東京糺問所の牢へ送られる途中、津輕付近で詠じたものといわれ、皇裁を仰ぎ自余の者の大なる処分を願おうとする心境がよく現われている。  
「健武帶刀前後を行く」とは、護送した熊本藩兵を指すものである。

榎本の書は晩年の作が多く「箱館戦争」に直接関連したもののは極めて少なく、然も印章の「榎本鑑印」も珍らしい。



## 博物館昭和50年度の指標と事業

館長石川政治

博物館へ来て、どことなく心の安らぎを感じ、人間文化の歴史をふりかえり、市民の心の中にゆたかな郷土愛がはぐくまれる。そんな博物館にしたいと願っている。

ある人は博物館とは大衆のための、さらに進んで大衆自身がつくり上げる文化の殿堂であるともいっている。

一方最近の市民生活はレジャーがより多くなり、生活をエンジョイする方向へと向かっています。函館の産業社会でも週休2日制がとりざたされ、余暇をより楽しく、より有意義に過ごすため苦労しているようである。

毎日の忙しいビジネスからくる精神的、肉体的いらだちを癒すにはどうしたらよいか。そこには、音楽、ダンス、山登り、旅行、釣り、スキーなどいろいろある。

昔はよく、社会教育というのは山の奥の電気も灯らない、丸太の一本橋の向こうにあるのだと、重い映写機等をかついで出掛けたものである。今では車ですと赤川、紅葉山、蛾眉野辺から数十分で函館の中心街に出ることが出来る。

そうした市民に博物館は自然科学、民俗学、考古学、歴史などの素材を一連のレクリエーションとして呼びかけて行きたいものである。博物館の普及活動が市民の1人1人にごく自然に与えられてゆくとき、市民はさまざまな学習をし、教養を身につけ、生活を充実することが出来るわけである。

一方研究者には文献や材料が与えられ、用意され、学習者には資料と合わせて、体験実習へと導かれる。博物館はたえず内外の資料と情報の収集と整備につとめ、ゆっくりと時間をかけて市民の納得のゆくまでサービスにつとめる。一面から見れば博物館は共同社会の中の市民大学でなければならない。

日本には伝統的な慣習「出前」がある。これは欧米にない日本固有のサービスである。出前精神で行こう！これが50年の博物館の指標である。なんなりと博物館にリクエストして下さい。そして子供さん等には自然の中で体験をさせる。そんな事をふまえて今年の事業を組み立ててみた。市民講座も学習の他見学会や体験実習を織り込んである。

### 事業のあらまし

#### (1)特別展

「第1回日本海文化展」テーマは江差・松前屏風と船だんす展。

函館の文化は日本海文化だといわれている。海流は文化を運ぶというが、江差の中村、横山両家に残されている文化遺産は明らかに北陸文化の影響を強くうけている。これは対馬暖流に乗って日本海を北上し運び込まれたものである。幕末から明治の初年にかけて長い間に培われた海上輸送の技術は、後にひいては函館の基幹産業である海運、造船、北洋漁業と進展していったもので、郷土函館の産業の基盤となった。この日本海文化展はこん後5カ年テーマを変えて継続開催の予定である。ご期待下さい。

#### (2)写真でみる函館のうつりかわり展

会場は五稜郭分館の2階で、今年は五稜郭戦争の史蹟を中心に展示したが、展示会終了後、希望の学校には巡回して、展示の予定である。

#### (3)市民講座

本年も生態、考古、歴史、民俗、美術の5講座を開設します。

**生態：**磯の生物かんさつ会は夏休み臼尻海岸を予定している。

又植物関係では通常毎月第2土曜日本館の集会室で開かれ、翌日実地見学会を行なっている。

**考古：**今中野町で行なわれている空港遺跡の見学会がある。8月を予定している。

**民俗：**アイヌのひげべらについて講座をもち、実地見学会としてアイヌコタンめぐりを企画している。

**歴史：**昨年に引き続き青森から見た箱館戦争をテーマに実地見学会を加えて10月中に行なう予定である。

#### (4)科学教室

市内の小学生4~6年生を対象としたもので五稜郭分館の2階の科学教室で開らかれている。この教室は定員45名となっている。天体、こん虫、植物など結構楽しいものである。ただ天体は夜間に行なわれることがあり、こん虫、植物かんさつ会など郊外に出る場合は父兄や保護者の方が同伴されるようおすすめする。

◆この他茶室杉花亭では茶道連盟による茶会。又親子そろっての赤川の男しやくいも掘り。冬に入ると函館公園で恒例の第6回冬の公園と博物館で遊ぶ会など、一年を通じ盛り沢山のユニークな行事がある。ふるってご参加下さい。これからのお行事は毎月の「市政はこだて」で報道があるので、見落さないように。

## 市立函館博物館沿革史（その7）

&lt;開拓使東京出張所内仮博物場&gt; (6)

セイウチ — 2 —

○海馬捕獲の報文

明治十一年一月廿一日函館書記官ヨリノ報文ニ係ル  
当管下茅部郡般法華村前浜ニ於テ同村小谷金藏ナル者海馬  
捕獲セシ旨本月十七日付ヲ以テ届出タリ該獸ノ儀ハ管内ニ  
テ古来未タ捕獲シタルコナキ奇獸ノ由就テハ博物館等へ出  
品適合ノ儀ト考へ箱入ノ假送致ス本人捕獲ノ際腐敗ノ憂モ  
置キ尤捕獲ノ実況ニ於ル則チ別紙ノ如シ

タリ  
本月十日午前七時頃當村ヨリ尾札部村迄船客大竹屋倉吉外  
女一人都合二人ヲ長二間程ノ磯船ニ乗セ二男龜太郎ト私同  
人ニテ漕行キ同日午前十時頃尾札部村へ着乗客一同上陸ス  
此時同村金作ト申者ニ途中行逢ヒ素ヨリ知音ニ付談話中先  
刻當村支古部ヘ行ント航行中「トマ」体ノ大獸見受タリ然  
レトモ急用航行ノ際ナルカ故ニ其何物タルヲ見認セス貴方  
相見ザルヤトノ間ニ付私儀航行ノ際不気付ノ旨相答ヘ同日  
正午十二時頃歸村ノ心得ニテ船ニ乗シ漕出ス先刻金作ノ漸  
ヲ怪ミ航行注意シ同村支古部海岸字「チョフシ」濱ノ平磯  
部ニ相掛リタリル一里半許此時果シテ談話ノ奇獸臥シ居  
ルヲ見受タリ然レキ未タ会テ見サルノ奇獸ニシテ全躰牛ヨ  
リモ一層大ナリ今之ヲ獵殺セント欲スルモノ機具ナシ依  
テト先般法華村自宅ヘ歸リ鉄炮彈薬用意致シ尚又二男龜  
太郎兩人ニテ漕出シ再ヒ「チョフシ」濱ニ至ル此時尚最前  
ノ奇獸臥居タリ右ヶ所ヨリ凡五十間程隔リタル平磯ヘ直チ  
ニ上陸龜太郎ハ其処へ差置私一人ニテ持參ノ鉄炮ニニツ玉  
ニ及五分玉ヲ込メ徐々ト凡三十間程ニ近寄ト難モ海獸ハ動  
搖ノ景色無ク依然トシテ臥シ居ルニ付頭上ヲ目掛け一発ヲ  
試ルニ少シモ動セス然レキ弾丸ハ的中セシニ相違無之尚徐  
々近寄リニツ玉ヲ込メ三四間程ニ到ル處海獸突然起キ上リ  
叫フ「二三声実ニ山岳モ崩ル如ク其勢ノ猛烈ナルニ驚駭シ  
前後夢中ニ凡五十間程逃去リ岩石ノ陰ニ潛伏暫ク景況ヲ観  
居シ處海獸前後左右ヲ回顧シ尚又打臥シ候ニ付凡三十間程  
進ミ牙ノ辺ヲ狙ヒ砲発ス海獸起上リ其勢警フ可キ者無シ其  
假海中ヘ飛入り形迹ヲ見ス今此場合ニ至リ見失ハ、極メテ  
遺憾ニ付直チニ乗船近辺搜索セシム凡五十間程沖合ニ浮出  
タリ依テ龜太郎一同漕寄セ二十間計リニ近付キ尚發炮セシ  
ニ是又正ニ的中ス最前ヨリ屢的中スルモ少シモ衰弱ノ体ナ  
ク又海底ニモ沈マサルニ付尚二三間ノ処ニ近ツキ用意セシ  
又「モリ」ト云フ形状下図ノ如ク海獸ノ背部ヘ  
打込ミタリ此時沈没スルニ付隨テ網ヲ延ハシ凡四十尋程沈  
ミ行キ又浮出ル時ハ網ヲ繰リ詰メ或ハ前後左右ヘ泳ク假船  
モ又漕廻シ如斯スルコト幾十度時間ヲ費スコト三時間程ニ及  
ヒ浮出ル毎ニ發炮セシ内沖合毫里半程引出サレタリ然ルニ  
二間計リノ磯船ニ付動モスレバ海獸ノ為メ覆没ニ及ハント  
スルコト四五度何分奇怪ノ獸加フルニ「ハナレ」迄打込ミ

シ上今打拾歸村スルモ遺憾ニ存シ種々工風ヲ運ス内沖合ヨ  
リ鷗船走セ来ルヲ見受ケ大声ニテ相招キ加勢ヲ乞タリ此  
乗込人平沼八右衛門外二名ニテ素リ知音ニ付直チニ助勢致  
シ其レ車櫂ノ先ヘ出刃包丁ヲ結付ケ海獸へ突立且ツ浮沈ニ  
隨ヒ「ハナレ」ノ網ヲ伸縮スル「一時間其間縦横二三里モ  
海獸ノ為メ引廻サル、ト難モ船二艘ナルニ勢援ヲ得種々手  
ヲ尽ス内追々衰弱セシニヤ最前ノ如ク動搖モ無ニ付漸ク  
碇網ヲ以テ八右衛門乗船居候船ヘ結付ケ私船モ繫ギ合セ折  
節北風ニ付帆ヲ揚ケ午後七時頃漸ク般法花村前浜へ着船ス  
直ニ声ヲ立人ヲ呼寄セ凡三十人程相集リ漸ク陸へ引上ケ村  
用係始メ見分セシニ古來捕獲ハ勿論未ク見覺モ無ニ奇獸ナ  
ル故此段御届仕候也

函館管下渡島國茅部郡  
般法花村漁民明治十一年一月十七日 小谷金藏  
副總代 増輪半兵衛

## 馬海量目寸尺

一全体	量目 二百〇三貫目
一同長サ	曲尺 壱丈毫尺
一牙長サ	同 壱尺八寸
一同周囲	同 七寸
一鬚長サ	同 壱尺強
一眼	同 縦九分横壹寸二分
一前足附根胴ノ周囲	同 九尺九寸
一前足長サ	同 二尺四寸
一同周囲	同 二尺毫寸
一同先幅	同 壱尺
一後足長サ	同 二尺六寸五分
一同周囲	同 壱尺九寸
一同先幅	同 壱尺八寸五分



明治12年北海道開拓使出版、開物類纂第二号ヨリ  
<学芸係長：姫野英夫>

## 最近受入れた資料

藍授褒賞	1点
地券	1通
広告	1通
北海道産物共進会出品解説調書	1冊
第4回国観業博覧会出品解説書(写)	1冊
【近江太郎氏寄贈・横浜市港地区日吉本町1892】	
錫壺	1個
古銭	42枚
【村島鶴治氏寄贈・函館市新川町22-12】	
ぜにがたあざらし剝製	1頭
【船名浩三氏寄贈・函館市千歳町2-18】	
明治時代使用外科器具	1式
ドイツ製顎微鏡	1台
鬼ガワラ(石造り明治時代のもの)	1個
電気傘及びガス灯用の器具	1式
菊池州二氏使用シルクハット	1個

【菊池勝夫氏寄贈・函館市弁天町11-15】

## 入館者統計

昭和49年度常設展示 &lt;50.1.4~50.3.31&gt;

月別区分	本館			分館			郷土資料館			統計	
	個人	団体	計	個人	団体	計	個人	団体	計		
1	大人	107	21	128	405	405	122		122	655	
	小人	136		136	102	102	71		71	309	
	計	243	21	264	507	507	193		193	964	
2	大人	87		87	787	37	824	162	162	1,073	
	小人	149		149	90		90	350	350	589	
	計	236		236	877	37	914	512	512	1,662	
3	大人	185		185	1,609	20	1,629	241	241	2,055	
	小人	356		356	243		243	212	212	811	
	計	541		541	1,852	20	1,872	453	453	2,866	
累計		5,965	1,887	7,852	61,630	23,029	84,659	3,115	2,026	5,141	97,652

昭和50年度常設展示 &lt;50.4.1~50.6.30&gt;

月別区分	本館			分館			郷土資料館			統計	
	個人	団体	計	個人	団体	計	個人	団体	計		
4	大人	248	40	288	3,296	60	3,356	252	252	3,896	
	小人	393	10	403	947		947	174	174	1,524	
	計	641	50	691	4,243	60	4,303	426	426	5,420	
5	大人			9,754	497	10,251	345	100	445	10,696	
	小人			5,399	5,423	10,822	96	481	577	11,399	
	計			15,153	5,920	21,073	441	581	1,022	22,095	
6	大人			10,319	4,677	14,996	443	22	465	15,461	
	小人			2,294	4,030	6,324	225	75	300	6,624	
	計			12,613	8,707	21,320	668	97	765	22,085	
累計		641	50	691	32,009	14,687	46,696	1,535	678	2,213	49,600

特別展 第1回「日本海文化展」  
(江差松前屏風と船だんす) <50.5.1~50.6.30>

区分	個人	団体	計
大人	3,627	633	4,260
小人	1,125	21,343	22,468
計	4,752	21,976	26,728

招待 206

## 博物館日誌抄 (49.5.28~49.12.28)

49. 5.28 博物館協議会開催(本館)  
9 トロント大学教授ウイリアム・ハーリ博士他5  
15 名来館  
7. 6 小原流家元小原豊雲氏他3名来館  
科学教室(七夕観測会)講師津川軍次郎氏  
7 市民講座(考古)講師小林政喜氏、11秋田県立  
美術館熊谷氏視察のため来館  
21 市民講座(考古)空港発掘予定地見学会  
25 日銀酒井氏資料の件について来館  
28 特別展錦絵にみる明治維新展開催8月21日まで  
8. 6 每日新聞支局長菅野収氏国際テレビ撮影の件で  
来館  
7 市民講座「磯の生物観察会」鹿部海岸にて  
8 「歴史はここに始まる」国際放映社五稜郭資料  
撮影  
9 科学教室「昆虫野外観察会」赤井川にて 講師  
中島康二氏  
16 科学教室「天体観測会」講師津川軍次郎氏  
18 市民講座(美術)講師武内収太氏  
25 市民講座(美術)講師武内収太氏  
29 帯広市教育長安田章氏他2名来館  
9. 1 市民講座(美術)講師武内収太氏  
6 北方圏生活環境展に展示する資料貸出す  
14 北方圏生活環境展式典出席のため館長、姫野学  
芸係長、渡辺庶務係長札幌へ出張  
21 市民講座(生態)講師宗像英雄氏  
22 伊勢民俗学会会長堀田吉雄夫妻来館  
26 東京国立博物館学芸部東洋課長谷部築爾氏来館  
27 東京都通信博物館調査役玉村勉氏歴史資料研究  
のため来館  
10. 1 曇涼期間 10月14日まで  
5 市民講座(生態)講師宗像和彦氏  
6 市民講座(歴史)講師武内収太氏  
9 科学教室(天体)講師津川軍次郎氏  
7 北風前博物館館長昨夜9時死去  
11 北風前博物館館長葬儀博善社にて  
13 市民講座(歴史)講師武内収太氏  
17 全道社会教育主事等中央研修会(道立図書館奉  
仕課長他16名)参加者館内見学  
20 市民講座(歴史)市内史跡回り講師西田係長  
22 全国史跡整備協議会全国大会参加者館内見学  
25 馬場脩氏函館市文化賞受賞決定す  
27 市民講座(歴史)講師西田係長  
29 博物館協議会開催本館  
11. 2 市民講座(生態)講師宗像和彦  
7 マ場脩氏文化賞受賞式出席のため来館  
11. 7 虹田町教育委員一行10名来館館内見学  
7 千代台陶芸クラブ楽焼開催(ロビー)にて11月  
10日まで  
10 市民講座(歴史)講師武内収太氏  
7 裏千家淡交会函館支部茶会開催  
7 「教室秋の月をみる会」講師津川軍次郎氏  
12. 7 市民講座(生態)講師宗像英雄氏  
12 島尻弘子書記東高校より五稜郭分館に転勤  
13 森川主事郷土資料館、松野主事本館へ、配置替  
えとなる  
17 道府文化課奥岡茂氏来館  
21 姫野係長神戸市へ出張「日本海文化展」準備打  
合せのため25日まで  
28 御用納め

Hakodate City Museum News

SARANIP—サラニップ— No.13 1975.8.1 発行

編集・発行 市立函館博物館 (TEL 0138-23-5480)

北海道函館市青柳町・函館公園内(〒040)